

Japan Society of Civil Engineers
International Activities Center

巻頭言

会長 新年挨拶



公益社団法人 土木学会
会長 廣瀬 典昭

新春を迎えるにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

2015年を振り返りますと、私自身、3月のアジア土木学協会連合協議会（ACECC）理事会（ダッカ）、10月の米国土木学会（ASCE）および大韓土木学会（KSCE）の大会に、土木学会代表として参加し、各国の皆様と交流を深める機会を持つことができました。また、9月の全国大会の国際関連行事では、特別討論会「元留学生が語る、日本土木への注文」、国際円卓会議「ビッグデータ時代の社会資本の整備—持続可能な社会を目指して」などに参加し、気候変動への対応、人材育成などが、世界共通の話題になっていることを実感いたしました。更に、WECC2015 世界工学会議への参加や、土木学会を訪問された海外の皆様との対話を通じて、土木学会の国際交流を深めて参りました。

土木学会の中期行動計画である JSCE2015 においては、国際的技術価値移転の推進が重点課題として挙げられており、今年もこれを推し進めていきます。日本の土木学会が提案して設

立が承認された、ACECC の防災・減災に関する技術委員会（TC21; Trans-disciplinary Approach for Building Societal Resilience to Disasters）では、日本を含めた各国の知見の共有が期待されています。更に、「建設産業グローバルビジョン」講演会や「世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ」シンポジウムの開催など、日本の若者にもっと海外に目を向けてもらえるような活動を継続します。また、海外分会活動の活性化を促し、各国の技術者と海外で活躍する日本人を含めた土木学会会員間の交流強化を進めて参ります。まさに、境界をひらき、世界の市民生活の向上に貢献する土木学会として、今年は更に活動の幅と奥行きを広げていく所存です。

最後に、ACECC の3年に一度の大会であるアジア土木技術国際会議（CECAR）が、2019年に日本で開催されることが決まりました。各国の土木技術者が集まり、議論する場である CECAR の開催に向けて、今年は準備を本格化するところであり、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



グローバルビジョン講演会にて（2015/2/27）



土木学会全国大会における国際円卓会議（2015/9/16）

コンクリート構造物の維持管理に関するジョイントセミナー開催

土木学会コンクリート委員会、土木学会フィリピン分会およびフィリピン大学デリマン校 (University of the Philippines Diliman) の共催で、2015年8月26日に「Joint seminar on maintenance of concrete structures in Philippines-Utilization of the knowledge of Standard Specification for Concrete structures of JSCE」がフィリピンマニラにて開催された。

会場は、マニラ首都圏北部にある Queson City の Eastwood Richmond Hotel であった。本セミナーの目的は、土木学会標準方書の優位性をフィリピンの技術者に伝えるとともに、標準方書維持管理編に基づいた維持管理の考え方および道路施設や港湾施設における日本の維持管理技術を広めることであり、以下に示す講演があった。

《セミナープログラム》

—2015年8月26日—

◆9:00-9:30 Registration

◆9:30-9:40 Opening Remarks & Ceremony

Speaker

・Dr. Nathaniel B. Diola (Associate Prof. of University of the Philippines Diliman)

・Dr. Ricardo G. Sigua (Prof. of University of the Philippines Diliman)

◆9:40-9:55 Coffee Break

◆9:55-10:55 “Outline of JSCE Concrete Codes”

Speaker : Dr. Kyuichi Maruyama (Emeritus Prof. of Nagaoka University of Technology)

◆10:55-12:10 “JSCE Concrete Codes Maintenance and Repair”

Speaker : Dr. Hiroshi Yokota (Prof. of Hokkaido University)

◆12:10-13:30 Lunch Break

◆13:30-14:30 “Current Situation of Road Structures and their Maintenance in Japan”

Speaker : Dr. Yoshinobu Ohshima (Senior Researcher of Public Works Research Institute)

◆14:30-15:30 “Recent topics on maintenance of Port Facilities in Japan”

Speaker : Dr. Toru Yamaji (Director of Structural Engineering Field Port and Airport Research Institute)

◆15:30-15:45 Coffee Break

◆15:45-16:45 “Cutting-Edge Technologies for Assessing Infrastructures”

Speaker : Dr. Tomoki Shiotani (Prof. of Kyoto University)

◆16:45-17:30 Discussion & Ending Remarks

—2015年8月27日—

◆8:00-12:00 Site visit to Sky Way Construction

◆15:00-17:00 Visit to Manila City

Attendances (above program) : Prof. Shiotani, Dr. Yamaji, Dr. Nishida

会議には、国関係の発注者、民間の設計者・施工者、大学関係者など幅広い分野から約50人の参加があり、日本からの講師の話に深く聞き入っていた。特に、マニラ首都圏は人口密度約18,000人/km²であり、東京都(約6,000人)の約3倍にもなる。このような人口高密度地域に、ビル、道路、高架橋、鉄道橋等のコンクリート構造物が立ち並ぶ。現在は、5~6%の経済成長率を維持しており「建設の時代」であるが、同時に日本のODA等により建設された構造物の「維持管理の時代」に入りつつもある。こうした状況の中、現地のエンジニアと維持管理に関する課題について、積極的な意見交換が行われた。

一概に「コンクリート構造物の維持管理」といっても、正解を見つけることはむずかしく、技術レベル、文化、気候、経済等々を勘案して、その国々に適したシステムや手法を確立していく必要がある。そのような中で、今回のようなJoint Seminarは非常に有用である。また、このような活動は、1回のディスカッションで解決する問題ではなく、双方が意見を持ち出して、繰り返し議論をしていく必要がある。そういった意味で今回はそのキックオフとして、盛会に終了した。

なお、本ジョイントセミナーは、公益信託土木学会学術交流基金による助成を受け、実施されたものである。ここに記して謝意を表す。

※本報告は土木学会コンクリートニューズレター(英文)にも掲載しております。

<http://www.isce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/newsletter43/index.html>

【記 コンクリート委員会 西田孝弘(京都大学)】



丸山教授による維持管理編全体に関する講演



セミナー参加者集合写真

概要紹介

自然災害に強いしなやかな国土の創出のために 一 行動宣言と行動計画 一

1. 概要

近年、東日本大震災や広島集中豪雨などの甚大な被害をもたらした自然災害が発生している状況をうけ、土木学会ではこのような自然災害の脅威から国民の生活や財産を守るため、防災への努力をあらためて強化する行動宣言、行動計画を策定することとした。

2013年12月、国民の安全を守り安心して生活ができる『自然災害に強いしなやかな国土』創出を検討することを目的とし、「強くしなやかな社会を実現するための防災・減災等に関する研究委員会」が企画委員会傘下に設立された。

2. 土木学会の行動宣言と行動計画

同委員会は、2015年6月に、活動成果を取りまとめた報告書「自然災害に強いしなやかな国土の創出のために一 行動宣言と行動計画一」を作成した。報告書に示された土木学会の行動宣言と行動計画は以下のとおりである。

◆行動宣言

土木学会は、土木技術の専門家集団として、自然災害に強い国土の創出のために、科学的知見の蓄積と発信、技術的な課題の解決法の提示を社会に行っていくとともに、科学・技術的知見を活かして、大規模な災害による市民の人命、経済活動、地域の活力をできる限り守るための具体的な行動を行う。

◆行動計画

土木学会は、自らの専門性に基づく知見や災害に関連する分野の連携・対応の整合性を図り国土・国民の安全を守るため、災害は待ってくれないという認識のもと、支部の体制整備を早急に図り、現地（地域・地区）に根差した災害対策の具体

的行動を行うこととし、以下に示す喫緊の課題※を当面の行動として取り組む。

※地区防災計画の策定支援、地域防災計画の点検、防災リーダーの育成支援、災害対応力の向上と育成支援、災害における情報共有の推進・改善、災害に強いまちづくりへの取り組み、海外協力など

《報告書は以下よりダウンロード可》

<http://committees.jsce.or.jp/kikaku/node/87>

3. 減災・防災に関する今後の活動

報告書の内容説明を目的として、廣瀬会長、橋本顧問を含む土木学会のメンバーが、2015年7月には国土交通省太田昭宏大臣（当時）を訪問した。太田大臣からは、土木学会が、地域に根差した活動を行っていくことに対して期待が示されるとともに、具体的な事例を早期につくること、国土交通省地方整備局と連携することについて要望が示された。

土木学会の防災・減災に関する活動は、JSCEが提案して、2015年10月のACECC理事会にて設立が承認された減災・防災に関する新TC（委員長：竹内邦良 ICHARM 顧問）などを通じて、国外にも知見を周知していく。



太田大臣と対談する廣瀬会長および橋本顧問（2015/7/29）

【記 土木学会 会員・企画課 勝濱良博】

イベントカレンダー

●2016年1月21日

第6回世界で活躍する日本の土木技術者シリーズシンポジウムー
シンズリ道路建設プロジェクト（東京 土木会館）

※参加申し込みは以下の URL からお願いします

<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>

お知らせ

●土木学会誌の特集記事の概要をJSCEのWebsite（英語版）にア
ップしました。<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>

●土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 43が発行さ
れました。

[http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/New
sletter.htm](http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/New
sletter.htm)

●学術交流基金管理委員会 国際ジョイントセミナー「一般公募」
を新設しました。<http://committees.jsce.or.jp/iefund/node/12>

購読申込み

国際センター通信購読の申し込みは以下のURLよりお願いいたし
ます。また、周囲の方に国際センター通信をご紹介いただければ幸
いでございます。よろしくお願いいたします。

〈国際センター通信配信希望者登録フォーム〉

・日本語版 <http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>

・英語版 <http://www.jsce-int.org/node/150>

掲載記事募集します！

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集し
ています。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談
などです。文字数は800字程度で和文または英文でご投稿ください。

〈記事投稿の詳細はコチラ〉

<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>

国際センターFacebook

国際センターの英語版Facebookです。直近の国際センターの活動に
ついて紹介していますので、ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/JSCE.en>

編集後記

2016年は申年ですね。申年の“申”は、機知に富み、賢
く、人を引き付ける魅力があるそうです。ややいたずら
好きではありますが。そして、挑戦好きでもありますね。
どこかで聞いたような？ 2016年、“申 “の良いところ学
び動けるようにしたいです。今年は“Think wisely and
act wisely,”と、自分に言い聞かせています。(Y.S.)

〈ご意見・ご質問〉 JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコ
メントをお聞かせください。